

HAYASHIYA  
Shojaku



二日連続口演



# 林家正雀

2017

歯切れのいい人情味あふれる語り口で、新潟の観客の心を  
とらえた正雀師匠。

今夏も二日連続の口演です。

一日目は越後を舞台とした「松山鏡」を間にはさみ、

トリは林家彦六の十八番だった「火事息子」。

二日目は二〇一〇年以來七年ぶりの「怪談牡丹燈籠」。今回  
はなんと、その冒頭から最後まで、三時間にわたり一挙に  
語っていただきます。

お楽しみに！

六月二四日(土)

午後六時開演

一文惜しみ

松山鏡

火事息子

六月二五日(日)

午後二時開演

三遊亭圓朝作

怪談牡丹燈籠

— お露新三郎見染めより  
十郎ヶ峰仇討まで —

前座 林家彦星

おはやし 柳沢きょう

illustration: HASUIKE Momo

砂丘館

旧日本銀行新潟支店長役宅

## 噺の手引き

林家正雀

### 一文惜しみ

講談の「五貫裁き」を落語に移したので、お白州の処が克明に語られていて、面白くなっています。又、当時の風俗(奉加帳や四文使い等)を知るのにも貴重な噺です。サゲはないのですが作ってみました

### 松山鏡

原話は中国だそうで、それが越後の松之山を舞台にした謡曲「松山鏡」になり、落語では越後新田の松山村が舞台で、登場人物全員(役人をのぞく)が鏡を知らない処から起こる騒動です。

### 火事息子

師匠彦六の十八番の一つです。師匠は名人内右師匠(圓朝師匠の高弟)のを聞き覚えたと云っておりました。旦那(父親)とおっ母さんの若旦那を思う情が聞き処となっています。

### 怪談牡丹燈籠

圓朝師匠の大長編ですが、今回は三時間にまとめて、珍しい「十郎ヶ峰の仇討」までの口演です。伴造とお峰の幸手堤では鳴り物入りで申します。

申し込み 電話・ファックス 025-222-2676 (砂丘館)

または E-mail [sakyukan@bz03.plala.or.jp](mailto:sakyukan@bz03.plala.or.jp) へ

\*ファックス、E-mail でお申込の場合は

連絡先(電話番号)、人数を併記してください。

申し込み開始日 5月10日



林家正雀  
落語家。  
一九五一年一月二日五日山梨  
県生まれ。七四年に八代目林家  
正蔵(のち彦六)に入門し、  
前座名繁蔵。七八年正雀で二ツ  
目。  
八三年同名のまま真打。

## 林家正雀 二日連続口演 2017

会場 砂丘館 居間・座敷・茶の間

定員 各日とも 50名

参加料 各回 3,500円(小・中学生2,000円)

2日通し 6,000円(小・中学生3,500円)

主催 砂丘館

## 砂丘館

旧日本銀行新潟支店長役宅

〒951-8104 新潟市中央区西大畑町5218-1

tel./fax. 025-222-2676

[sakyukan@bz03.plala.or.jp](mailto:sakyukan@bz03.plala.or.jp)

指定管理者:新潟絵屋・新潟ビルサービス特定共同企業体



会場には駐車場がありません。また、周辺の道路は駐車禁止です。公共交通機関をご利用下さい。

●新潟駅からのバス:浜浦町線 C2系統又は観光循環バス「西大畑坂上」バス停下車徒歩1分

●新潟市西堀地下駐車場をご利用の方は、駐車券掲示にて1時間分の無料券を差し上げます。

私たちは砂丘館の自主事業を  
応援しています。

富田ありれ株式会社

NSGグループ

株式会社ナレッジライフ

新潟ビルサービス

丸屋本店

藤田金属

郷土の文化に親しむ会